

須津・浮島ほか

頭のくぼんだ道祖神

平成三年四月五日号

古い道の片隅に静かにたたずむ道祖神。市内に幾つも見られますが、中でも須津や浮島、元吉原地区には頭のくぼんだ道祖神が見られます。さて、頭のくぼんだわけは…。

しゃーはらさん

「みっちゃん遊ば」「うん、さっちゃん何して遊ぶ?」みっちゃんとさっちゃんは大の仲良し。二人は道祖神の前を通ってお寺の広場に行きました。

「そうだ、しゃーはらさんをつくらう」しゃーはらさんとは、新しい竹でつくる人形のことです。

早速みっちゃんは竹を切って来ました。さっちゃんは竹をたたく石を探し、二人で道祖神のところに行って行きました。そして、みっちゃんは道祖神の頭に竹を乗せ、石でたたき始めます。隣では、さっちゃんが、

♪一つ石屋のいっちゃんか…♪なんて歌っています。しばらくすると、みっちゃんの竹はたたいたところが糸のようにばらばらになりました。「はい、交代。今度はさっちゃんの番」こうして二人は竹の上半分を髪の毛にした人形づくりを始めました。顔をかき、髪に花をさして、家で紙や布の着物を作ると完成です。その日は、みっちゃんもさっちゃんも大変上手にできました。

また、男の子は、よもぎの葉を取ってきては、やはり道祖神の頭に乗せ、たたきました。

▶ 頭のくぼんだ道祖神（中里）



すると、緑の汁が出てくるので、それでした。ずらがきをするのです。こうして、道祖神の頭はだんだんくぼんでいきました。

これは、みんなのおじいちゃんやおばあちゃん、子どもたちのお話です。今は、こんな遊びはなくなっていました。

塞さいの神とも呼ぶ

近くの道祖神を毎日お参りしているという船津の太田はるゑさんは「この道祖神は塞の神と呼ばれています。家族が健康に暮らせますようにとお願しているよ」と話してくれました。

語ってくれた方

太田はるゑさん